

顯著ナル食物腔ニテもなす膨レタリ。ぶろとこつてもハ變セズ。
二時四十分

ぶろとこつても綠色ナリ、被膜明了。もなす減量、形毀レテ杯ノ如ク
ぶろとこつてもナ被フ、鞭毛ハ點ノ如ク見ユ。

四時

續ケテ檢スルヲ止ム。食兩ナガラ減量ス、もなすハ特ニ著シク減
量。ぶろとこつてもハ綠色、然シ濁レリ。

六時

食物腔ハ善ク分ラズ。

同十七日 あみーと体ノ一部壓ニヨリテ損ズ。被害後十五分ニシテ伸縮

腔始テ働ク。脂肪ヲ給ス。取込マル。變化ヲ見ズ。

同十八日 小脂肪粒おもみつく酸ニテ着色ス。あみーバ殺サル。

Meissner 氏も原蟲の消化作用を研究せしが (Zur Ernäh-
rungsphysiologie der Protozoen. Z. f. w. Z. Bd. 46.) 大抵グ
リーンウード氏と同様の結果を得たり。即ち根足蟲ハ澱
粉、脂肪を消化せず、唯他の原蟲、水藻、バクテリアなどの
元形質を取る、恐くバ吸ひ取り、殘餘ハ體外ニ捨るあり。
(前説と少々相違あり) (5、5、)

●ハイドラと就ての試験 ハイドラは池又は遅き
流れの中ニ住する蟲にて水草或ハ底ニ落たる木の葉を探
せば容易ニ之を捕ふるを得べし。此蟲ハ甚ダ丈夫にて切
ても突ても死する氣遣なければ色々面白き試験を爲す

を得、而て此等の試験ハ別段に六ヶ敷器械とてハ入ら
ず何人とても爲し得べきを以て今左ニ其二三を記すべ
し。

先づ一疋を取りて之を横切ハるすべし。總てハイドラを
切るハガラス板の上ニ置きて鋭き小刀にて切るか又は
厚き紙ニ載せて紙と缺いて切るなり、斯くして横切ハ
おしたる二片を取り水の中ニ養ヒ置く時ハ二三日の中ニ
尾ばかりの一片ハ切口の周圍ニ TENTAKUL (觸角) を生
じ頭ばかりの一片ハ底を生じて他物ニ附着し一週間を
経る前ハ二疋の完全あるハイドラとあるべし、尤も全
癒する迄の時間ハ氣候の寒暖によりて長短あり夏の速く
冬の遅し。次ハ一疋を取りて縦切ハるすべし、斯くハす時ハ
ハイドラハ恰も竹を割りたる如き二片とある。此二片ハ
各自己の左右の切口を相近け傷口全癒して二疋とあるべ
し、然し全癒迄の時間ハ横切ハる比ずきバ餘程短し。
又一疋を取りて體の中程迄縦切ハる爲す時ハ傷口全癒して
頭二つ尾一つのもの或ハ頭一つ尾二つものを得べし。
度々此法を繰カへして行ふ時ハ終に八頭一尾のハイドラ

動物學雜誌第六號

をも製し得るなり。

或る人一疋のハイドラを取り横切よして三片とせし中の片即ち筒の如き形の所を縦に切りて二片とせし各完全なるハイドラと成れりと云ふ、又テントクル一本を切放せし此一本のテントクルも亦一疋のハイドラとあれりと云へば此動物の如何に小さく切るとも各片皆終りの一疋とあるべし。

最後に記すの試験中最も面白きものにて即ちハイドラを裏返すことあり、元ハイドラの體の袋の如き形ゆへ之を裏返すに左やど六ヶ敷こととあらず。

成べく大なるハイドラを取りゴム片の上へ水一滴を落とし、その中へテントクルは有る方を左にして入れ、左の手よて少し開きたるピンセット或は針二本を以てテントクルの下を挟み押へ、右の手よて先の尖らざる細き針よて底の真中を押し口より外へ出すなり、其有様の恰も口と左よして糠袋を置き左の手の指よて口の兩端を押へ右の手よて底を突き口より出し裏返すは異ならず。

ピンセットの代は二又の針を造り、又尖らざる針のいが

ラス管をアルコールランプにて引延し折りて先を火にて丸めたるものを造らば最も重寶なり。

斯く裏返したるハイドラの腸の外は向ひ常は外面にある皮の内にある故、胃と稱するの袋の外にて世界と云ふの袋の内なきハイドラを裏返す時の天地間万物の皆其胃の中にあるなり。左やどハイドラの宇宙を呑むの甚た究屈と見へ勉て舊の形は復せんとすれば、此を防ぐ爲極めて細針金にてテントクルの下の所を通してゴム片を刺すべし。

不思議なることなり斯く針にて留たるハイドラも一兩日後に見る時の何時しか知らぬ中へ舊の形は復し居るなり、此れは或る不思議なる法にて針のあるも係らず元へ裏返るはなくてはなく、内となりたる皮の細胞が口及び針を刺したる傷口より這ひ出で、舊の如き形は復するなりと云ふ。

(を、あ、)

●冬潜中甲蟲の食 過る十九年九月中旬余は小石川植物園庭内の路傍に一箇の小孔あるを發見し其内を窺ひ見たるは其入口は當りて何か潜伏せるが如くありし故之